



JSCO

DAILY NEWS

日本癌治日報

The Official Daily Newspaper of
the 48th Annual Meeting of
Japan Society of Clinical Oncology



第48回日本癌治療学会学術集会



会長 三木 恒治

京都府立医科大学大学院医学研究科
泌尿器外科学



Cancer Cure & Care

第48回日本癌治療学会学術集会は、「癌を治す、癒す—Cancer Cure and Care—」をメインテーマに、開催させていただきます。現代のがん治療においては、よりよい治療成績を目指すだけでなく、QOLや緩和ケア、患者支援、治療後の社会復帰にもスポットをあて全人的な治療、すなわち「治す：Cure」と並行して患者さんを「癒す：Care」ことも課題となります。本学術集会では、このメインテーマである「治す」と「癒す」のそれぞれの観点から、特別企画、シンポジウム、パネルディスカッション等、合計84セッションの多岐にわたるプログラムを企画いたしました。

さらに、昨年ご好評をいただいた学会速報紙「JSCO Daily News」を、今年も引き続き発行いたします。今年さらなる紙面の充実を図るべく、ページ数を増やし、より多くのプログラムを取り上げる予定です。

す。がん治療における Up to Date なシンポジウム・教育セッションなど学術的な速報をはじめ、本学会関係者へのインタビュー記事や、患者さんが参加される Patient Advocate Lounge やポスター・展示会場など各種企画のご紹介など、多角的な情報をお届けします。皆様の学会参加を充実させるツールとして、今年も「JSCO Daily News」をお役立ていただけたら幸いです。

また、本学術集会が開催される10月末の京都は、秋の観光シーズンを迎えています。宿泊先は早くから予約で満室となる可能性がございますので、どうかお早目に申し込みをされますようご案内申し上げます。

それでは、皆様のご来洛を心よりお待ち申し上げます。



発行日：**2010年10月28日(木)、29日(金)、30日(土)**

配布場所：学会会場メインホール付近、展示会場入口付近など

学会期間中、毎日発行いたします。

プレビュー号

学会開催直前に、JSCOの見所が詰まったプレビュー号を発行！
2010年10月18日頃、第48回日本癌治療学会学術集会HPに掲載予定です

<http://www.congre.co.jp/jsco2010/>

第48回日本癌治療学会学術集会の注目セッション

癌を治す

Cancer cure をテーマにしたプログラム



基調講演 「がんを治す、癒す」 垣添 忠生氏(財団法人 日本対がん協会)

分子標的薬の注目セッション

- **招聘講演**：「分子標的治療の現況」 Michael B. Atkins氏(Harvard Medical School)
- **ASCO-JSCO Joint Symposium**：「Targeting therapy up-date」
- **シンポジウム**：「分子標的薬剤の新展開」、「分子標的治療におけるバイオマーカーの役割」、「乳がん分子標的治療薬の今後の展開について」、「肺がんの分子標的治療」、「進行性腎がん治療の現状と新たな展開(分子標的治療薬の使い方)」、「RBを標的とした我が国初の新規分子診断及び分子標的薬の開発」、「血液腫瘍における分子標的治療の新展開」、「大腸がん治療新時代：personalized therapyの現状と今後」
- **ワークショップ**：「GISTに対する分子標的治療の現状と展望」

基礎からがん治療への注目セッション

- **特別講演**：「ゲノム創薬の現状と展望」 中村 祐輔氏(東京大学医科学研究所 ヒトゲノム解析センター)
- **JSCO-JCA Joint Symposium**：「エピジェネティクスからがんの治療を考える」、「がんの微小環境(血管浸潤、がんの転移・浸潤)からのがん治療」
- **シンポジウム**：「再生医療を応用したがん治療」、「がん幹細胞医学からがん根治療法への発展」

がん免疫療法の注目セッション

- **シンポジウム**：「がん免疫療法」
- **パネルディスカッション**：「がんペプチドワクチン療法」、「WT1ペプチドがん免疫療法の現状と将来」

がん局所療法の注目セッション

- **シンポジウム**：「小さな肝がんに対する治療:手術 vs RFA」、「軟部肉腫における治療戦略」
- **パネルディスカッション**：「がんの局所療法」
- **ワークショップ**：「肺がんにおける先端治療の開発」

その他の注目セッション

- **特別講演**：「日本癌治療学会の将来展望」 前原 喜彦氏(九州大学大学院消化器・総合外科)
- **会長講演**：「難治性精巣腫瘍—Battle against Testicular Cancer—」
三木 恒治氏(京都府立医科大学大学院医学研究科泌尿器外科学)
- **シンポジウム**：「遺伝子治療」、「外来化学療法の現状と問題点」、「Triple negative乳がんの特徴と治療戦略」、「切除不能進行再発大腸がんに対する化学療法—いかに各薬剤を使い切るか?」、「大腸がん肝転移の治療戦略~Cureを目指したパラダイムシフト~」
- **パネルディスカッション**：「がん検診の意義と意味:異なる立場(医療者・患者)からの提言」、「骨盤外科の解剖と各領域の実際」、「再発卵巣がん治療：最先端を覗く」他

癒す

Patient care をテーマにしたプログラム

招聘講演 「三度のがんを患って」 梅原 猛氏(国際日本文化研究センター)

特別企画 「定点観測:がん対策基本法、がん対策推進基本計画に基づくわが国のがん医療」

患者さんと向き合う注目セッション

- **シンポジウム**：「がん難民を救うために」、「がん医療情報提供を考える—医療者と患者の情報ギャップ(情報の非対称性)を如何に埋めるか?」
- **パネルディスカッション**：「Cancer Survivorship—医療者と患者はがんとどのように向き合うか?—」
- **教育シンポジウム**：「患者教育について学ぶ」

チーム医療の注目セッション

- **シンポジウム**：「Cancer Board複数多科合同診断・治療戦略会議の現状と今後のあり方」
- **パネルディスカッション**：「がんの地域連携クリティカルパス」、「がん治療における栄養サポート」

緩和ケアの注目セッション

- **教育セミナー**：「緩和医療学、精神腫瘍学を基礎から学ぶ」
- **パネルディスカッション**：「がん疼痛管理と緩和ケアチーム」
- **ワークショップ**：「がんの在宅ケア」、「一歩上を行くがん疼痛治療」他

※自分の見たいプログラムにたどりつけるprogram by trackを作成しました。プログラム集およびweb siteをご参照ください。一般演題は1,713題(口演707題、示説1,006題)を予定。今年もHyposを採用し、ポスター会場以外でもその内容をご覧いただけます。さらに、最優秀・優秀演題については、特設の大型モニターにて随時上映いたします。